

令和5年度 学校経営計画

1 めざす学校像

- ◆生徒の就労を通じた潤いのある社会的自立の実現をしっかりと支援する学校
- ◆生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、より適切で効果的な指導・支援をするために進化する学校
 - ・生徒の一人ひとりの卒業後を見すえ、地域、関係機関等との連携のもと、本校の実践と成果を広く社会に還元する。
 - ・社会の変化や企業ニーズ等をふまえつつ、生徒の自己選択の力を育成するなど、継続性を見すえた社会参加（就労）を実現する。
 - ・社会の変化や多様性に迅速に対応するため、柔軟で機動力を備えた職員集団となるよう継続的に組織体制を検証し、改善する。

2 中期的目標

- 1 積極的な校外への取組みや地域、関係機関との連携・交流の充実
 (キャッチフレーズ) 「Circle of TAMAGAWA」
 (1) 既存の枠組みの関係をさらに深め、新しい分野や事業先との連携を開拓する。
 (2) 高等支援学校や高校及び共生推進教室設置校との連携や交流機会を拡大する。
 (3) 地域との協同による「たまがわフェスティバル」等を計画的に運営し、地域に愛される学校をめざす。
- 2 より適切で効果的なマッチングを基本とした多様な進路指導体制の確立及び生徒の社会的自立を見すえた教育活動の充実
 (キャッチフレーズ) 「GIGA×キャリア教育=未来予想図」
 (1) 生徒一人ひとりのニーズ及び新たな職域開拓による就労率の維持、向上を図るとともに、離職率5%以内を目標とし、関係機関との連携による卒業生の就労継続支援を充実する。
 (2) 「主体的・対話的な深い学び」を追求し、ICTや1人1台端末を活用した授業づくりに取り組むなど、生徒のキャリア発達につながる支援教育の充実を図る。
 (3) キャリア発達支援の観点を重視し、生徒の卒業後を見すえ、自立活動をはじめとする個に応じた指導・支援体制を構築する。
- 3 今後の社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ取組みの推進
 (キャッチフレーズ) 「Team TAMAGAWA 8.0」
 (1) 関係機関との連携のさらなる充実、教職員間の意思疎通を図り、「チームたまがわ」として校務に取り組む機運を醸成する。
 (2) 今後10年に向けた新たな教育カリキュラムの検討をはじめ、改善を進めることにより組織の活性化を図る。
 (3) 校務の効率化を図り、業務負担の不公平感の是正に向けたルール作成や組織づくりを推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 積極的な校外への取組みや地域、関係機関との連携・交流の充実	(1) 既存の枠組みの関係をさらに深め、新しい分野や事業先との連携を開拓する。 (2) 他校との連携・交流・支援 (3) 地域に根ざした学校教育活動の充実	(1) ア 障がい者就業・生活支援センターやハローワーク等の関係外部機関との連携。 イ SSWを活用し、各福祉関係機関等と連携を取っていく。 (2) 共生推進教室設置校と、生徒間、教職員間の交流の機会を充実する。 (3) ア マルシェ等の運営を計画的に進め、生徒と関係機関や地域とのかかわりを増やす。 イ 地域の支援学級、支援学校への情報提供を新たなスタンスで構築していく。	(1) ア 多様な生徒の進路保障のため、各地域の相談支援センター等との連携を深める。 イ 卒業後の生徒が、活用したり繋がれたりする関係機関や施設を新規開拓し、現在関りのある機関との連携を深める。 (2) ・共生推進教室生と本校生徒との交流日を設定し、学年ごとの交流を増やす ・新たに共生推進教室生と本校生徒会や委員会との交流を計画実施する。 (3) ア 河内警察とのタイアップの推進及び地域周辺の企業や施設等の提携先を増やす。 イ ホームページでの新たな発信コンテンツを模索し、説明会等で使用する動画情報を充実させる。	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 適切なマッチングを基本とした多様な進路指導体制の確立及び生徒の社会的自立を見据えた教育活動の充実</p>	<p>(1) 就職率の維持及び定着率の向上。</p> <p>(2) 確かな学力の育成</p> <p>(3) キャリア教育（キャリア発達支援）及び発達支援の視点を柱とした自立活動の充実</p> <p>(4) 生徒会活動や部活動など生徒主体の活動の充実</p>	<p>(1) ア 高校卒業求人など、幅広く求人情報を収集し、新規実習及び新規就労受入れ事業所開拓。 イ 卒業後のアフターフォロー体制を改善・充実する。</p> <p>(2) ICT 機器を活用した授業充実に向けた環境整備の推進。</p> <p>(3) ア キャリアプランニングマトリックス（試行）により生徒のキャリア発達のアセスメントと本人へのフィードバックを行う。 イ アセスメントの観点を重視した自立活動の推進と充実。 ウ 本校入学を検討する中学生が、なりたい自分を描くことができる魅力的な学校生活をイメージできるよう本校の学びをアピールする。…本校の 20 周年（令和 7 年度）を見据えて取組みを進める。</p> <p>(4) ア 生徒の主体性を育成し、生徒会、委員会活動等を活性化する。 イ 高等支援はじめとする知的障がい支援の高等部との部活動を軸とした活動の充実を図る。</p>	<p>(1) ア 学校全体（教職員）で企業訪問数を 150 社以上行う。 イ 1 年後の離職者の割合が 5%以内をめざす。[1.8%]</p> <p>(2) ・1 人 1 台端末を活用した授業が年度末に 7 割以上となることをめざす [6割] ・電子黒板機能付きプロジェクター設置教室を 1 室以上整備する。</p> <p>(3) ア キャリアプランニングマトリックスの試行実施（2 年目）を行い、項目内容の改善や実施方法、生徒へのフィードバック方法を外部専門家も交えて検討する。 イ ・認知機能トレーニング（コグトレ）については ICT 化を推進することで、集団プログラムから個人プログラムへ近づける取組みを進める。 ・シナプソロジーと SST（ソーシャルスキルトレーニング）に関する教員向け研修を実施する。 ウ ・昨年度議論した「めざす生徒像」をもとに、令和 7 年度に向けてアドミッションポリシーの見直しを進める。 ・ホームページでの新たな発信コンテンツを模索し、説明会等で使用する動画情報を充実させる。（1（3）イ再掲）</p> <p>(4) ア 本校生徒と地域の施設（高齢者施設やこども園など）と新たな交流機会を 1 回以上計画実施する。 イ 各知的障がい者スポーツ大会の大阪府代表（バスケボール等）をはじめとする競技スポーツの拠点校の一つとなり、練習場所や指導体制をコーディネートする。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ取組みの推進</p>	<p>(1) 校内研修の充実</p> <p>(2) 教科・分掌横断的な取組みの充実</p> <p>(3) ワークライフ・バランスの追求</p>	<p>(1) ア 支援教育の専門性、学習指導要領の内容をふまえた計画的・効果的な研修の実施</p> <p>(2) ア 他教科の授業工夫の観覧のため相互授業参観の徹底 イ 今後 10 年を見据えた新しい教育カリキュラムの検討や現在の課題を洗い出す。</p> <p>(3) 全校一斉定時退庁日の更なる取り組みの推進や業務の精選を議論し、時間外勤務の減少に繋げる。</p>	<p>(1) ア ・外部講師の研修会を年 2 回の実施とし、研修内容の充実を図る。[1 回] ・教員用専門図書を昨年に引き続き、充実整備し、延べ年間 200 冊以上の閲覧をめざす。 イ 将来構想委員会を継続し、新カリキュラムのたたき台を作成する。</p> <p>(2) ア 教員授業相互見学の充実。1 人 2.2 回以上見学する。[1.73 回] イ 将来構想委員会を継続し、新カリキュラムのたたき台を作成する。</p> <p>(3) ・全校一斉定時退庁日の実施を部活動や学校行事等を調整することで実効性を高める。年度末には 80%以上の実効性をめざす。</p>	